

日本初の電動エレベーター 浅草凌雲閣

- 住所
東京都台東区浅草2丁目14番
- 交通アクセス
つくばエクスプレス
浅草駅 1番出口 50m

■日本で初めて電動エレベーターが運転

明治23年(1890)11月10日、東京・浅草の浅草凌雲閣において、わが国ではじめて電動エレベーターが運転されました。

この電動機への電力供給は、動力用電力供給の始まりでもありました。

浅草凌雲閣は、高さ66m、八角形12階で、1階から10階までがレンガ造り、11・12階が木造り、屋根には風見の避雷針が設けられました。

各階には50ほどの店が軒を連ね、最上階の12階には30倍の望遠鏡が設置されました。各階には白熱電燈が3個、11階の閣外にはアーク灯が2基点灯されました。

凌雲閣竣工の前年には、パリのエッフェル塔が建設されており、「浅草凌雲閣は日本のエッフェル塔だ」と、多くの見物客が押しかけました。

電動エレベーターは8階まで運転されました。当時の雑誌は、「黄色と赤色の2台があり、1台の広さは3畳ほど、内部の周囲には布団を敷いた腰掛を設け、電灯を点け、大きな姿見を掲げ、乗客は一回に15人以上20人まで乗せた」と述べています。なお、このエレベーターは、警察の指示によりわずか半年で運転停止になってしまいます。

多くの人達にときめきと感動を与え一世を風びした浅草凌雲閣は、開業から33年後、大正12年(1923)9月1日に発生した関東大震災により、建物の8階以上が崩壊し、陸軍の工兵隊により爆破解体されその幕を閉じました。

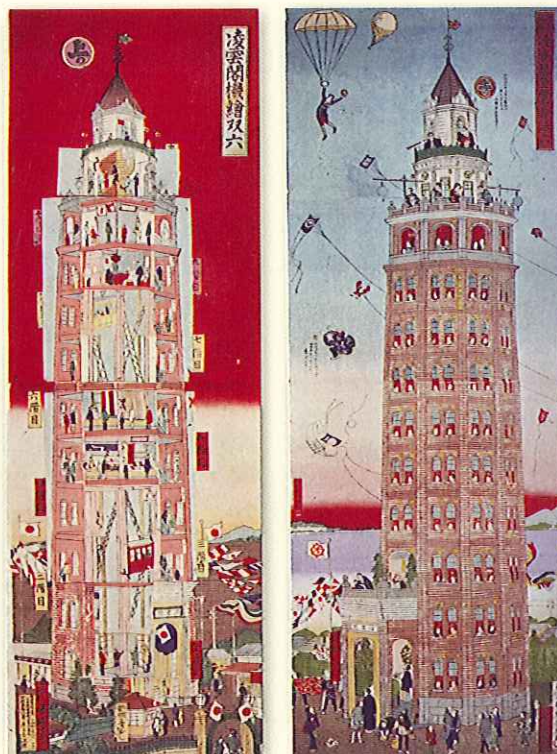


図1 浅草凌雲閣機絵双六 出典 東京電燈50年史
・左図にはエレベーターやらせん階段が描かれています
・右図の11階にはアーク灯が2基吊るされています

■当時の地図での場所

図2は、浅草凌雲閣が開業してから17年後の、明治40年(1907)に発行された地図(復刻版)です。左上の「凌雲閣株式会社」と表記されているところに浅草凌雲閣がありました。



図2 明治40年 東京市浅草区全図(復刻)
資料提供 (株)人文社



図3 現在の地図(2009)

■現在の状況

明治時代の地図(図2)を参考に、現在の地図(図3)において浅草凌雲閣の位置を追うと、浅草花やしきの左側、丸印のところになります。

両図を比べると、道路などの区割りは明治時代とほとんど変わっていませんが、大きく異なるのはひょうたん池が昭和33年(1958)頃に埋められて無くなっていることです。

なお、遊園地の浅草花やしきは、震災や戦災での一時的な閉園はありましたが、江戸末期より現在まで、この地で続いています。

現地を訪ねたところ、浅草凌雲閣のあったところは、六区ブロードウェイ通りの北正面突き当たり斜め左側で、パチンコ店になっていました。なお、パチンコ店になる前は映画館だったそうです。



写真1 ブロードウェイ通りからの浅草凌雲閣跡

パチンコ店入り口左側には「浅草凌雲閣記念碑」がありました。この碑は、平成16年(2004)12月、パチンコ店の開店に合わせて「凌雲閣史蹟保存の会」により設置されました。



写真2 記念碑

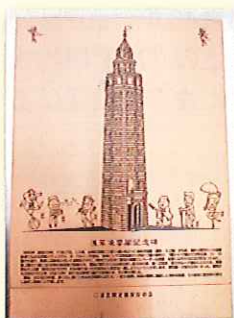


写真3 プレート部

記念碑のプレート部分には、設計者はイギリス人WK・バルトン、建物の概要、エレベーターの設置、12階には30倍の望遠鏡があり東京随一の観光名所であった、凌雲閣の終幕、記念碑設置の趣旨などが記述され、また、踊神、演神、話神、唄神、奏神、戯神などの人物絵も描かれています。

■エレベーターへの電力供給

エレベーター運転用の電動機は、アメリカ製直流7馬力(5.3kW)でした。

この電動機を動かす電気は、千束(吉原に隣接)にあった東京電燈会社(東京電力の前身)の第5電燈局という名の火力発電所から、直流210Vで送られました。

図4は、東京電燈会社五十年史に挿入されている「明治24年(1891)下期末の電灯普及状態図」です。凡例によれば、黒丸の中は「供給エリアの電灯数」を、太い実線は「電柱建設の線路」を示しています。名刺大のサイズで不鮮明ですが、拡大するなどしてルートを読み取ってみました。

図5は、読み取ったルートを経現在の地図に落としたもので、第5電燈局と浅草凌雲閣間の距離は、約800mとなります。



図4 東京電燈の明治24年下期末配電ルート
○印 第5電燈局 出典 東京電燈50年史



図5 現在地図での配電ルート